

# 道徳教育と異文化理解能力

## —中学校道徳教科書の分析を通して—

宮崎 元裕  
(教育学科准教授)

本稿では、道徳教育における異文化理解能力育成の可能性を検討するために、「国際理解、国際貢献」と「相互理解、寛容」の2つの内容項目に注目して、光村図書、東京書籍、日本文教出版の3社の中学校道徳教科書の内容分析を行った。その結果、異文化理解能力の育成は、教科書をそのまま用いるだけでは不十分なものの、異なる教材を関連させて用いたり、国際理解、相互理解を深める「方法」に注目した発問を行ったりすることで、異文化理解能力の育成は可能であることを示した。

キーワード：道徳教育，教科書分析，異文化理解，国際理解，相互理解

### 1. はじめに

グローバル化の進展に伴い、異なる文化を尊重する異文化理解能力の重要性が増している。それにもかかわらず、異文化理解能力の育成が学校教育で十分に行われているとは言いがたい。

本稿では、道徳教育における異文化理解能力の育成の可能性について検討するために、中学校の道徳教科書の内容分析を行う。その際、学習指導要領において道徳教育で扱う内容項目とされている22項目のうち、「国際理解、国際貢献」と「相互理解、寛容」の2項目に特に注目する。この2項目は、異文化理解に特に関係する項目だからである。分析対象とする教科書は、光村図書『中学道徳1～3 きみがいちばんひかるとき』、東京書籍『新訂 新しい道徳1～3』、日本文教出版『中学道徳 あすを生きる1～3』の3社の2020年検定済み（2023年発行）の中学校3年間分の教科書である。なお、以下では、3社をそれぞれ光村、東書、日文と略す。

### 2. 国際理解、国際貢献

学習指導要領で、道徳教育の内容項目「国際理解、国際貢献」は、「世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立

って、世界の平和と人類の発展に寄与すること」とされている。

この内容項目に対応する、3社の中学校教科書の教材名とその概要は、表1～3の通りである。なお、概要は筆者がまとめたものである。

表1 光村図書の「国際理解、国際貢献」

光村1年
①異文化の人々と共に生きる（117～120） …意見の対立を避ける日本と、意見の違いを述べるのが好まれるフランスの違いに触れた話。夜もにぎやかでゴミ出しのルールを守らないマンションの外国人の話も。
②考えの違いを乗り越える（121～122） …意見が異なるときの対処法として、対決、協調、妥協、回避、服従、第三者介入の6つの方法を説明。
光村2年
①むこう岸には（99～105） …文化の違う「むこう岸」との交流の物語。
②国際人道支援（106～107） …国境なき医師団のスタッフと活動の紹介。

③アンネのバラ（174～177）

…アンネのバラを育てる高井戸中学校のエピソード。

光村3年

①希望の義足（122～126）

…ルワンダで義肢工房プロジェクトを立ち上げた日本人女性のエピソード。

②本当に意味のある国際協力とは（127～128）

…国際協力に関わっている日本人へのインタビュー。そこで大切なこととして挙げられているのは、1 現地の人々の声を聞くこと、2 問題の背景を考える、3 その土地で生きていく人の生活や考え方を意識する、4 考えることから始める、の4点。

表2 東京書籍の「国際理解、国際貢献」

東書1年

①山岳民族の文化を守る（124～127）

…フィリピンの山岳民族の民族楽器に関わっている日本人の話。

東書2年

①六千人の命のビザ（100～107）

…杉原千畝の話。

東書3年

①その子の世界、私の世界（144～147）

…途上国の子どもたちの問題（子ども兵士、難民、児童労働）。

②そのこ（148～150）

…働く子どもに関する谷川俊太郎の詩。その後、子どもの権利条約の説明（151）

③命見つめて（180～183）

…戦時、収容所に入れられ日本を憎んでいたオランダ人が広島を訪れ、憎い相手を許すことの大切さに気づいた話。

表3 日本文教出版の「国際理解、国際貢献」

日文1年

①花火に込めた平和への願い

…長岡市とホノルル市の真珠湾攻撃を巡る交流。

②違いを乗り越えて

…ホームステイのインドネシア人との文化の違い。生魚、そばを食べる音、人差し指での指さしなど。

「初めは変だなと思うことも、その背景を知れば理解できるのではないのでしょうか。」

日文2年

①海と空—檣野の人々—（54～59）

…エルトゥール号の救助と、イラン・イラク戦争時のトルコによる救援機。

②ダショー・ニシオカ（140～143）

…ブータンで農業指導に尽力した日本人

日文3年

①命のランジットビザ（44～47）

…杉原千畝の話。

②本とペンで世界を変えよう（150～153）

…教育を受ける権利を訴えるマララ・ユスフザイの話。

上記3社の「国際理解、国際貢献」に関する内容は、(1)日本と海外の交流と平和、(2)過去の国家間の出来事、(3)-1 国際協力、(3)-2 海外で活躍する日本人、(4)文化の違いやその対応方法に分類できる。

(1)日本と海外の交流と平和

光村2年③アンネのバラ

東書3年③命見つめて

日文1年①花火に込めた平和への願い

3社とも、中学生や大学生と、外国人との交流が題材になっている。さらに、3社とも第二次世界大戦が関係する話で、平和について考える内容であり、単元の問い（「考えよう」「自分を見つめよう」など）も平和に関することである

(下記)。

- ・バラを育てることが、どうして「平和への思いをつないでいく」ことになるのだろうか(光村)。
- ・世界の人々の心に平和のとりでを築くためには、どのようなことが大切なのだろう(東書)。
- ・世界平和のために、自分に何かできることはないか考えてみよう(日文)。

## (2)過去の国家間の出来事

東書 2年①六千人の命のビザ  
 日文 3年①命のトランジットビザ  
 日文 2年①海と空－樫野の人々－

東書と日文が杉原千畝のビザ発行の話を取り上げている。単元の問いも、両社ともに、杉原の思い・考えについて問うものと、世界平和に貢献するためにできることを問うもので、共通している。

また、日文は、日本とトルコの2つの救援活動を取り上げている。この話の問いは、「2つの救援活動をつなぐものとはなんだろう」「国際人として生きていくために私たちはどんなことを大切にすればよいだろう」である。

なお、光村には(2)に該当する内容はない。

## (3)-1 国際協力

光村 2年②国際人道支援  
 光村 3年②本当に意味のある国際協力とは  
 東書 3年①その子の世界、私の世界  
 東書 3年②そのこ  
 日文 3年②本とペンで世界を変えよう

東書は子ども兵士、難民、児童労働の問題などを取り上げ、その子たちのために、自分たちにできることは何かを考えさせている。ただし、問題を解決するために具体的にどうすればよいかを考えるための題材が不足している印象である。

一方で、光村は、国際協力を行う際に注意しなければならないことに具体的に踏み込んでいる。ただ単に学校や病院を作れば良いという思いだけではなく、何が本当に現地の人たちのためになるのかを考えた国際協力でないかと本当に

意味のある国際協力にはならないことを具体例を示しながら説明している。その上で、「誰かのために、何かをしたいという思いは、何より大切なんだ。その思いがなければ、何も生まれない。そこからスタートして、『自己満足』ではない、将来にわたって現地の人のためになる協力を考えることが、本当に意味のある国際協力だ」という言葉で締めくくっている。

日文は、マララ・ユスフザイが戦争で学校に行けなくなったこと、彼女の教育を求める声を紹介し、マララの気持ちを考えさせ、教育が平和につながる可能性を示している。

## (3)-2 海外で活躍する日本人

光村 3年①希望の義足  
 東書 1年①山岳民族の文化を守る  
 日文 2年②ダショー・ニシオカ

3社ともその土地に根ざした活動を行い、現地の人々から感謝される活動を行っている日本人を取り上げている。(3)-1の国際協力に含まれる内容ではあるが、活動する個人に注目している点が3社とも共通していたので、(3)-1と区別し、(3)-2として分類した。東書・日文ともに、単元の問いは、国際協力を行うときに必要な姿勢や大切にしたいことを考えさせる内容である。

(3)-1では、光村のみが現地に根ざした国際協力を考えるための題材を提示しており、東書・日文にはその題材が不足していた。しかし、東書・日文の(3)-2の内容は、(3)-1を考えるための有効な題材である。東書・日文は、国際協力の事例である(3)-2について、1年生もしくは2年生で扱っているものの、(3)-1を3年生で扱う時に、教科書では(3)-2の内容と結びつけることが明示的になされていない。この教科書を用いる教員が意識的に結びつけることができれば、生徒の学びがより深まると思われる。

一方、光村は、(3)-1、(3)-2の内容を、同じ3年生で、なおかつ連続したページで扱い、「希望の義足」の最後の「つなげよう」で「次の『本当の意味のある国際協力とは』」を読んでみようという形で、明示的に結びつけている。そのた

め、生徒自身が学びを深めやすい形になっている。

(4) 文化の違いやその対応方法

光村1年①異文化の人々と共に生きる

光村1年②考えの違いを乗り越える

光村2年①むこう岸には

日文1年②違いを乗り越えて

光村1年①(異文化の人々と共に生きる)と、光村1年②(考えの違いを乗り越える)は、連続したページでセットになっている。①で価値観の違いの具体的な例を挙げて、それを考えるための方法(対決、協調、妥協、回避、服従、第三者介入)を②で提示して、2つを関係させて考えさせる形である。

さらに光村1年①の最後には、「つなげよう」として、「言葉の向こうに(相互理解・寛容)で考えたことと、似ているところ、違っているところは、どんなところだろう」という問いもある。学習指導要領の内容項目の異なる「国際理解、国際貢献」と「相互理解・寛容」とつなげて考えさせることを明示している点は注目に値する。

日文では、日文1年②(違いを乗り越えて)でインドネシアと日本の文化の違いが具体的にわかる話を提示した後で、文化の違いに対する姿勢を次のように述べている。

「ほかの国の文化をお互いに少しずつ知っていくことで、自分自身の国の文化もわかるようになり、互いに文化についての知識を交換することができ、お互いを理解していけるのではないか」。

「喜びや悲しみといった基本的なことは同じだということがわかります。また、初めは変だなと思うことも、その背景を知れば理解できるのではないのでしょうか」。

このように、日文も具体的な話をもとに、異文化理解に大切な姿勢につなげるという形になっている。ただ、単元の問いは「私たちが他国の人と接するとき、どんなことを大切にしていけばよいだろう」となっている。本文中で大切な姿勢を述べた後に、「どんなことを大切にしてい

けばよい」と問われても、本文に書いていることを答えるだけになってしまう可能性が高いので、学びを深めるためには教員側に工夫が必要になるだろう。

3. 相互理解、寛容

国際理解と関係の深い「相互理解、寛容」について、学習指導要領では「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」とされている。

「相互理解、寛容」について、3社の教科書の内容をまとめたのが表4～表6である。

表4 光村図書の「相互理解、寛容」

<p>光村1年</p> <p>①私の話を聞いてね(36～39) …右手の指のないページさんのSNSへの投稿内容。「人と違って大丈夫だということ」を学ばせてあげてください」。</p> <p>②言葉の向こうに(73～78) …インターネットでの口論・トラブルを通じた気づき。</p> <p>光村2年</p> <p>①ジコチュウ(17～20) …自己中心的に見えた同級生の事情を知り、見方が変わる話。</p> <p>②「桃太郎」の鬼退治(96～98) …桃太郎側だけではなく、鬼側からも考える。「ジコチュウとつなげて考えてみよう」という問いもあり。</p> <p>光村3年</p> <p>①ソーシャル・ビュー(63～67) …ソーシャル・ビューの説明とその意義。「障害のある人を『助けてあげなきゃ。』だけでなく、『何かをいっしょにしよう。』という関わり方です。」</p> <p>②恩讐の彼方に(139～144) …憎き父の敵に、心を動かされ許す話。</p>
---

③アイツとオレ (167～171)

…対抗心を燃やす相手の言葉で、自分を見つめ直す話。

①自分だけ「余り」になってしまう (154～159)

…ひとりになるつらさと、それを気にしすぎないことの説明。「みんなで余りの一人を分かち合うようになればいいのになあ」。

表5 東京書籍の「認め合う心」\*

東書1年

①いじめに当たるのはどれだろう (22～24)

…教室を描いたイラストを見て、いじめに該当する行為を問いかける。

「傍観者でいいのか」という話が続く (25～27)

②落語が教えてくれること (138～141)

…優等生の発想で責めるのではなく、相手の気持ちを想像することで許してあげる落語の人間味を説明。

東書2年

①遠足で学んだこと (18～22)

…遠足で、同級生の行動から「みんなちがって、みんないい」ことに気づいた話。

②注文をまちがえる料理店 (94～98)

…従業員が認知症の人々で注文を間違える可能性の高い料理店の話。「間違いを受け入れ、いっしょに楽しむ」。

東書3年

①しあわせ (134～139)

…給食の好みの違いをきっかけに、全体の幸福と個人の幸福の関係について話し合い、「みんなの考え方の違い知ることが全体のしあわせを考えるスタート」とまとめる話。

②心にしみこむ”言葉”の力 (171～174)

…池上彰の「コミュニケーションの原点は、相手の話をよく聞くこと」という説明。

日文2年

①コトコの涙 (144～148)

…老人ホームのボランティアで、老人を子ども扱いしたことを、老人の若い頃を知っている同級生に咎められる話。

日文3年

①言葉の向こうに (86～89)

…インターネットでの口論・トラブルを通じた気づき。

上記3社の「相互理解、寛容」に関する内容をみると、「異なる見方に気づき、自分の考えが変わる」ことを扱った内容が多い。光村の内容は1～3年までほぼすべてが、「異なる見方の気づき」に関係する内容である。また日文2年①、日文3年①、東書2年①・東書2年②もこれに該当する。

「異なる見方の気づき以外」の内容としては、東書1年①・日文1年①のいじめ問題に関係する内容や、東書1年①や東書3年②の相手の気持ちを想像したり相手の話を聞くことの大切さを扱った内容がある。

教科書で「異なる見方に気づき、自分の考えが変わる」ことに関係する内容が多いのは、学習指導要領の「相互理解、寛容」の後半「それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」に対応している。

その一方で、学習指導要領の「相互理解、寛容」の前半「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに」に対応する内容は、3社の教科書では少なかった。自分を大切にするよりも、自己犠牲を良しとする傾向が強いことは、これまでの道徳教育の問題点と指摘されてきたが(松下、2011年)、「相互理解、寛容」の教科書の内容は、

\*東京書籍では、「相互理解、寛容」に対応する内容項目が「認め合う心」とされている。

表6 日本文教出版の「相互理解、寛容」

日文1年

その問題点を感じさせるものになっている。

とはいえ、「異なる見方に気づき、自分の考えが変わる」ことが、相互理解・寛容において重要であることは確かである。そこで、「異なる見方に気づき、自分の考えが変わる」きっかけについて、3社の教科書でどのように描かれているかを、筆者の解釈も含めて、表7でまとめた。表7では「他者の言葉」「他者の行動」「視点や価値観の転換」の3つに分類した。

表7 「自分の考えが変わる」きっかけ

他者の言葉－自分に関する他者の指摘

- ・光村1年③・日文3年①言葉の向こうに自分に向けられた他者の言葉「あなたが書いた言葉の向こうにいる人々の顔を思い浮かべてみて」で、気持ちが変わる。
- ・光村3年③アイツとオレ  
自分の行動を改めるように忠告する同級生の言葉に、言い返せなくなる。同級生が「キミと同じように、オレだって」と自分にも共通点があると示した言葉が転機になったようだ。

他者の言葉－他者の事情に気づく言葉

- ・光村2年①ジコチュウ  
ジコチュウに見えた同級生の事情（母が入院中で弟妹の面倒をみないといけない）を聞いて、ジコチュウではなかったことに気づく。
- ・東書2年①遠足で学んだこと  
同級生のこれまで知らなかった面（植物を大切にするとその理由の説明が腑に落ちる。また、迷惑をかけないように急いでいた自分の行動が、同級生の植物の説明をゆっくり聞きたい気持ちのある他の人の迷惑になっていたことに気づく。
- ・日文2年①コトコの涙  
老人ホームの入所者に子どもをあやすように言葉をかけた時に、「修三じいさんは、赤ん坊じゃねーんだ！ 大工の棟梁だぞ！」と叫ばれたことで、現在とは異なる姿があったことに気づく。

他者の行動

- ・光村3年②恩讐の彼方に  
憎い相手が、隧道を造ろうとするひたすらな姿に心を動かされる。

視点や価値観の転換

- ・光村2年②「桃太郎」の鬼退治  
桃太郎側だけではなく、鬼側の視点で考える。
- ・光村3年①ソーシャル・ビュー  
見える人と見えない人が共同でおこなうソーシャル・ビューだからこそ、見える人にも気づくことがある（見えない人に説明するために自分の解釈を言語化することをがんばるなど）という指摘によって、「助けてあげなきゃ」だけでなく、「何かを一緒にしよう」という関わり方の重要性（1人1人の違いが生きてくる関わり）に気づく。
- ・東書2年②注文を間違える料理店  
従業員が認知症の人々で注文を間違える可能性の高い料理店。この話は、「間違いを受け入れ、いっしょに楽しむ。（中略）でも、間違えることを受け入れて、間違えることを一緒に楽しむ。そんな、ほんのちょっとした気持ちを社会の側がもつことができたなら、きっとこれまでにない、新しい価値観が生まれるのではないかと思ったのです」と締めくくられる。「間違えないのが当たり前」という価値観の転換。

表7でまとめたように、「他者の言葉」がきっかけになっている内容が多い。その他者の言葉は、自分に関する他者の指摘と、他者の事情に気づく言葉の2つに分けられる。

「自分に関する他者の指摘」に関しては、「言葉の向こうに」「アイツとオレ」とともに、最初に向けられた言葉ではない。自分の行動について、いくつかの指摘がされるが、最初の指摘ですぐに気づいたわけではなく、他者が「自分に響く言葉」を発した時に、初めて態度が変化している。このことが示しているのは、「相手に響く言

葉を選ぶ」ことができることの重要性である。それにもかかわらず、「言葉の向こうに」「アイツとオレ」の単元末の問いは、「私」の気持ちを問うことが中心になっている。

例えば、「私はいちばん大事なことを忘れていたと言っているが、どんなことを忘れていたのだろう」(日文3年)「思いっきり外の空気を吸ったとき、私はどんなことを思っていたらろう」(光村1年)といった問いである。

ただ、『あなたが書いた言葉の向こうにいる人々の顔を思い浮かべてみて』と書き込んだ人は、どのような考えで書き込んだのだろう」(光村1年)という問いもあり、この問いのみ「私」ではなく、「私」に響いた言葉を発した側に注目した問いである。

「相互理解」なのだから、私の気持ちだけではなく、相手の気持ちについても考えることは不可欠なはずだが、私の気持ちの変化に関する問いが中心になっていることには注意が必要である。

そして、私と相手の両方の気持ちを考えた上で、「相手に響く言葉を選ぶ」ためにはどうすればよいのかについても考えることは、そうした言葉を実際に選ぶためのトレーニングになるだろう。

また、「他者の事情に気づく言葉」は、自分が他者の一面しか見ていなかったことに気づく内容である。自分の固定観念に気づくためには、まず「他者の言葉」をきちんと受け止めることが必要である。ただ、他者の言葉を受け止めることは必ずしも簡単なことではない。自分の固定観念に気づくことの大切さを認識させる内容と問いはあるが、なぜ他者の言葉を受け止められたのか、どうすれば受け止めることができるのか、自分の固定観念に気づくためにどうすればよいのか、などに関しては、内容・問いかけともに十分ではない。

もちろん、3社の教科書で扱われているように「自分の考えが変わる」内容の話に触れ、「視点や価値観の転換」の経験を積むことは、自分の固定観念に気づくことにつながる。ただ、より明示的に、「相手に響く言葉を選ぶ方法」や「自

分の固定観念に気づく方法」について扱うことで、固定観念に気づき自分の考えが変わることの「大切さを認識する」だけでなく、相手に響く言葉を選べたり、固定観念に気づいたりといった形で「実際に相互理解を深める力」を育むことができるのではないだろうか。

#### 4. 光村図書の「つなげよう」

ここまで3社の教科書を比較してきたが、光村は、他の2社に比べて、学びをつなげることを重視している。このことは、単元末の問いにも明確に表れている。

東書の問いは「考えよう」と「自分を見つめよう」の2種類、日文の問いは「考えてみよう」と「自分に+1」の2種類で、すべての単元末にこの2種類の問いがある。

それに対して、光村の問いは、「考えよう」「見方を変えて」「つなげよう」の3種類がある。ただし、「考えよう」は、すべての単元末にあるが、「見方を変えて」と「つなげよう」の問いはない単元もある。

光村の「つなげよう」の問いは、他の2社にはないもので、道徳の学びを深めるために有効な問いだと考えられる。本稿で取り上げた「国際理解、国際貢献」と「相互理解、寛容」に関する内容で、光村の「つなげよう」は表8のようになっている。

表8 光村図書の「つなげよう」

<p>光村1年異文化の人々と共に生きる</p> <p>* 「言葉の向こうに」(相互理解、寛容)で考えたことと、似ているところ、違っているところは、どんなところだろう。</p> <p>・次の「考えの違いを乗り越える」を読んでもみよう。</p> <p>光村1年私のお話を聞いてね</p> <p>・次の「ユニバーサルデザインー誰もが使いやすいものを」を読んでもみよう。</p> <p>光村1年言葉の向こうに</p> <p>・今日の授業で学んだことは、あなた自身の生活に、どのように生かしていけるだろう。</p> <p>光村2年むこう岸には</p>
--

・次の「国際人道支援—どんな仕事があるのだろうか」を読んでみよう。

光村2年ジコチュウ

・「寛容」とは、どんな心のことをいうのだろうか。今日学んだことと、つなげて考えてみよう。

光村2年「桃太郎」の鬼退治

\*「ジコチュウ」（相互理解、寛容）で学んだことと、つなげて考えてみよう。

光村3年希望の義足

・次の「本当に意味のある国際協力とは」を読んでみよう。

・国際的な視野に立って、世界の平和を考えると、これはどういうことか、これからも考えていこう。

光村3年ソーシャル・ビュー

・今日の学びを、美術科での学びに生かしてみよう。

・筆者の伊藤亜紗さんの考え方をヒントにして描かれた絵本を紹介します。『みえるとか、みえないとか』

光村3年恩讐の彼方に

・人を許せるようになるには、どんな心が必要か、これからも考えていこう。

・これからさまざまな経験をする中で、自分の心と向き合うとき、今日の学びを思い出そう。

上記の光村の「つなげてみよう」のうち、「次の～を読んでみよう」のように、関係する他資料を読んで考えることは、東書や日文でもなされている。また、自分の生活にどのように生かすか、というような問いも、東書や日文でもなされている。

しかし、他の単元の話とつなげて考えてみるような問い(表8で\*を付した2つの問い)は、東書や日文ではみられない、光村の特徴である。

## 5. 関連させることの重要性

光村のように、様々なことを関連させて考えることは、いろいろな観点から考え、視野を広げる上で重要である。1つの話だけでは気づか

ないことに、2つの話を関連させて考えることで気づく可能性は高い。

東書も日文も、相互に関連させて考えることで理解が深まる単元はたくさんあるものの、その関連は、光村ほど明確には示されていない。

本稿では、異文化理解能力に注目して、「国際理解、国際貢献」と「相互理解、寛容」の2つの内容項目に注目したが、他にも「自主、自律、自由と責任」「思いやり、感謝」「遵法精神、公德心」「公正、公平、社会正義」などの多くの内容項目が異文化理解能力に関係する。様々な内容項目を関連付けて考えることでより視野が広がるし、そもそも視野を広げることこそ、異文化理解能力の重要なポイントの1つである。

光村は、異なる内容項目間を「つなげよう」で関連させて考えさせようとしている。「つなげよう」の項目以外にも、光村の教科書には、関連させて考えさせようとする意図が見える部分はいくつもある。

例えば、本稿で「相互理解、寛容」の内容項目として取り上げた「恩讐の彼方に」は、光村の教科書では「相互理解、寛容」だけでなく「よりよく生きる喜び」の内容項目にも該当する教材として挙げられている。

また、光村3年には「自主、自律、自由と責任」に対応する教材として「手品師」が挙げられている。「手品師」は、光村の小学校6年の教科書では「正直、誠実」の内容項目に対応する教材として扱われている。つまり、「手品師」は、「自主、自律、自由と責任」に対応する内容としても、「正直、誠実」に対応する内容としても扱うことができるということである。そして、どちらへの対応を意識するかで、手品師の行動に対する評価は変わる。

光村3年の手品師の冒頭には、「次の話は、小学校の道徳の時間に学んだことがあるかもしれませんが。その頃より成長した今、小学校のときに学んだことをもう一度学び直したら、あなたは、どんなことを感じたり考えたりするでしょうか」と記述されている。そして、単元末の問いは、「手品師は、本当に『誠実』といえるだろうか」となっている。つまり、小学校の時は「誠

実」のお手本だとされた手品師を、中学校では「本当に誠実なのか」と視点を変えて考えさせようとしているわけである。

そもそも、小学校で手品師を誠実と教えることの問題点は既に指摘されている（松下、2011年）。その問題点に、中学校3年で内容項目を「自主、自律、自由と責任」に変更することで対応している取り組みと言える。

このように、手品師を様々な観点から考えることは、固定観念にとらわれず視野を広げるために、意味のある取り組みである。

道徳教科書においては、学習指導要領の22の内容項目と対応する教材を準備する形がとられている。そのため、対応する内容項目に沿った形で、教材が解釈される傾向が強い。しかし、手品師のように、1つの教材は1つの内容項目ではなく、実際には複数の内容項目に関係する場合が多い。したがって、複数の内容項目をもとに考えると、それぞれの内容項目が独立しているのではなく、相互に関係していることに気づくことができる。

また、教材同士をつなげることで、矛盾が生じて、その矛盾について考えることで視野が広がることもある。例えば、本稿でも扱った、杉原千畝のビザの話（国際理解、国際貢献）と、今回の3社でも取り上げられている道徳の定番教材である「二通の手紙」（遵法精神、公德心）をつなげて考えると、「杉原千畝さんと元さんはともに『規則を破る』という行いをしましたが、杉浦千畝さんは英雄として描かれています。この二人の違いはどこにあるのでしょうか」という問いが生まれるという指摘もある（荒木、2018年）。

## 6. 異文化理解能力の育成の観点から

最後に、異文化理解能力の育成の観点から、3社の教科書の内容を再考する。

「国際理解、国際貢献」と「相互理解、寛容」に関する教科書の内容は、平和や国際協力・相互理解、寛容の「大切さを知る」、もしくは「その大切なことのために自分に何ができるかを考える」ということに重点が置かれている。

国際理解や相互理解を深める「方法」についても、「国際理解、国際貢献」の「(4)文化の違いやその対応方法」に分類した教材では文化や価値観の違いに対応する方法が扱われているし、「相互理解、寛容」に関する教材では他者の言葉をきちんと受け止めることの必要性を感じさせる教材も多い。

しかし、国際理解や相互理解を深める「方法」については、不十分な点もある。これに関して、本稿で指摘した問題点は、以下の点である。

- ・「方法」を具体的に考えるための題材が不足している。
- ・「方法」に注目した問いがなされていない。
- ・「相手の言葉に響く言葉を選ぶ」重要性とその方法について注目されていない。
- ・他者の言葉をどうすれば受け止めることができるのか、自分の固定観念に気づくためにどうすればよいのかに関する内容、問いが不足している。

上記の問題点のうち、題材の不足については、先述したように、他の内容項目の題材を関連させて用いることで、ある程度まで解消することが可能である。また、教科書以外の題材を準備することでも対応可能だろう。また、「方法」に関する問いの不足に関しては、「方法」を意識した発問をおこなうことで対応可能である。

つまり、教科書だけでは、国際理解や相互理解の「大切さ」を知ることはできるが、理解を深める「方法」については、教員が意識的に工夫をする必要がある。「大切さ」を知ることも重要だが、それを実践する「方法」が身につけていないと、「大事だとは思っているが、実際には無理だ」と相互理解を諦めてしまう危険性がある。自分とは異なる文化や価値観を理解したり尊重したりすることは困難なことであるからこそ、その大切さを知ることに加えて、実践する方法を身につけることが、異文化理解能力の育成には必要である。

本稿では、「国際理解、国際貢献」と「相互理解、寛容」の2項目に注目して分析をおこなったが、異文化理解能力の育成に関係する項目は他にも多い。例えば、筆者は、文化・価値観の

異なる者がお互いを尊重して共生するためには、その文化・価値観を大切にしている「理由」を論理的に話し合う対話が大切だと論じてきた（例えば、宮崎、2018年）。この点に関する道德教育の内容項目は「遵法精神、公德心」である。この項目に関する教科書の内容と教科書を用いる工夫についても、異文化理解能力の育成に大きな関係があるが、この点の分析に関しては別稿に譲りたい。

引用・参考文献

- 荒木寿友「定番教材『二通の手紙』を用いた道德の授業づくり」『教育 zine』明示図書、2018年  
(<https://www.meijitoshoh.co.jp/sp/eduzine/q4um/?id=20180926> (2024/01/08 閲覧))
- 松下良平『道德教育はホントに道德的か?』日本図書センター、2011年。
- 杉中康平・田沼茂紀ほか『中学道德 1～3 きみがいちばんひかるとき』光村図書、2023年。
- 渡邊満・押谷由夫ほか『新訂 新しい道德 1～3』東京書籍、2023年。
- 吉澤良保・越智貢・島恒生ほか『中学道德 あすを生きる 1～3』日本文教出版 2023年。
- 宮崎元裕「多様性を尊重する道德教育：自他の理解と対話・交渉に基づく道德教育の方法」『京都女子大学発達教育学部紀要』14号、2018年、45～54頁。